

平成25年度「新潟市子ども読書活動推進計画」に基づく各課・機関の取組

◇子どもの読書活動を推進するための方策

平成24年度の実績		平成25年度の取組	
①保護者への働きかけ	課・機関名	内容	区分
(保育課) ○各保育園において絵本の貸し出しや参観日などで、絵本をとおした親子のかかわりや楽しさの共有を体験してもらった。園の便りや連絡ノートなどで絵本の持つ力の啓発を行った。	保育課	○公立保育園における読み聞かせボランティア活動を積極的に活用する。 ○園行事や園だより等で、啓発や情報提供を実施する。	継続
(こども未来課) ○市民協働で運営しているホームページ・携帯サイト「にいがたっ子ひろば」で、子どもの読書活動につながる情報を掲載し、保護者への周知・働きかけを行った。(掲載件数H25.3月末:28件)	こども未来課	○市民協働で運営しているホームページ・携帯サイト「にいがたっ子ひろば」で、子ども読書活動の推進について適宜情報を掲載する。	継続
(各区健康福祉課) ○股関節検診と1歳6か月健診・3歳児健診時に図書館ブックリスト「たのしい絵本」を配布し、読み聞かせの啓発普及を行った。(年間519回) ○地域保健福祉センターでは自主事業による「親子のフリースペース」に年3回、「スマイルキッズ」に年2回、ボランティアグループ「絵本の会がらがらどん」による絵本の読み聞かせなどを行い、保護者に読み聞かせの大切さを体感してもらった。 ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝えるなど計画どおり実施した。(各施設月1~2回実施)	各区健康福祉課	○股関節検診と1歳6か月健診・3歳児健診時に図書館ブックリスト「たのしい絵本」を配布し、読み聞かせの啓発普及を行う。 ○地域保健福祉センターでは自主事業による「親子のフリースペース」に年3回、「スマイルキッズ」に年2回、ボランティアグループ「絵本の会がらがらどん」による絵本の読み聞かせなどを行い、保護者に読み聞かせの大切さを体感してもらう。 ○子育て応援ひろば、児童センターでは幼児、児童等に読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝える。(各施設月1~2回実施)	継続
(生涯学習課) ○大畑少年センターや若者支援センターにおいて、図書館の「ほんぽーとBメール(中央図書館だより)」や各種チラシ等を設置し、啓発に努めた。 ○大畑少年センターでは、2歳以上の未就園児とその保護者を対象にした主催事業「大畑すくすくひろば」で、絵本の読み聞かせ等とおして子ども同士・親同士の交流や仲間作りの支援を行った。(年間11回)	生涯学習課	○大畑少年センターや若者支援センターにおいて、図書館の「ほんぽーとBメール(中央図書館だより)」や各種チラシ等を設置し、啓発に努める。 ○大畑少年センターにおいて、2歳以上の未就園児とその保護者を対象にした主催事業「大畑すくすくひろば」を開催し、絵本の読み聞かせ等とおして子ども同士・親同士の交流や仲間作りの支援を行う。(年間8回)	継続
(公民館) ○乳幼児期の家庭教育学級の講座の中で、図書館司書等を講師として「絵本」に関する時間を設けた。(10館)	公民館	○乳幼児期の家庭教育学級の講座の中で、絵本に関する時間を設ける。	継続
(図書館) ○保護者対象に5月26日「パパ&ママのための絵本講座」(保育付き事業)、11月10日「グランパ&グランマのための絵本講座」を開催した。 ○職員のおはなしのじかんに併せ絵本や読み聞かせ等について相談してもらえるよう「えほんなんでも相談タイム」を設けた。 ○市立図書館で作成した絵本のブックリストを改定し、関係課・機関に配布・設置した。 ○横越地区公民館との連携により、乳幼児学級の読み聞かせの講座に講師を派遣した。	図書館	○市政さわやかトーク宅配便や公民館講座に子どもと絵本についての講師を派遣する。 ○保護者向けの保育付き絵本講座、孫を持つシニア向けの絵本講座(保育なし)を開催する。	継続
②ブックスタート事業の実施	課・機関名	内容	区分
(保健所健康増進課・各区健康福祉課) ○ブックスタート関係者会議に出席し、協力体制、実施状況について確認した。 ○母子健康手帳にブックスタートの意義を掲載し、啓発を行った。 ○図書館のホームページに掲載のブックスタートに乳幼児歯科健診のリンクをはった。	健康増進課 各区健康福祉課	○ブックスタート関係者会議に出席し、協力体制、実施状況について把握し情報を共有する。 ○母子健康手帳にブックスタートの意義を掲載し、啓発を行う。	継続

1
家庭

1 家庭	<p>(図書館)</p> <p>○ブックスタートは1歳誕生歯科健診の会場(17会場)で203回、6,225名に実施した。</p> <p>○新潟市教育フォーラム2012のパネルディスカッションでブックスタートボランティアの実践報告を行った。</p> <p>○ブックスタートボランティアのスキルアップを目的に、11月21日にブックスタートボランティアステップアップ講座を開催した。第1部・児玉イツ子氏(元保育園長・新潟中央短大非常勤講師)の講義。第2部・グループワーク(実践練習)。</p> <p>○中央、豊栄、新津、白根、西川の図書館協議会でブックスタート事業についての評価を行った。</p> <p>○ブックスタート事業についてのページを作成し、図書館ホームページ上にリンクをはった。</p>	図書館	<p>○ブックスタートは、平成25年度は約6,300人を対象に1歳誕生歯科健診の16会場で204回実施予定。</p> <p>○ブックスタート事業についての評価を中央、豊栄、新津、白根、西川の図書館協議会で行う。</p> <p>○ホームページのブックスタートの情報を更新する。</p>	継続
	③図書館の充実	課・機関名	内容	区分
	<p>(図書館)</p> <p>○子どもを持つ保護者の利用促進に向け、3館で子育てを支援するコーナーを設置し、乳幼児向けコーナーの充実に努めた。(H23年度以前に設置:2館、H24年度設置:3館、H25年度以降設置予定:3館)</p> <p>○ほんぽーとこどもとしょかんで「としょかん探偵局」を開催し、おすすめ本の紹介や自由研究のおたすけなどでレファレンス(調査相談)を強化した。また、全館でも同様に積極的に相談を受け付けた。</p>	図書館	<p>○乳幼児を連れた保護者が利用しやすい図書館づくりに努める。</p> <p>○子育て世代向けのコーナーの充実に努める。</p> <p>○積極的に本の相談を受け付ける。</p>	拡充

2 保育園・幼稚園	①保育園・幼稚園への啓発	課・機関名	内容	区分
	<p>(保育課)</p> <p>○読み聞かせボランティアを公立保育園において約4割が活用し、延べ250回読み聞かせを行った。</p> <p>○啓発や情報提供は計画のとおり実施した。</p>	保育課	○子どもと読書に関する啓発リーフレットの設置やポスターの掲示をし、情報提供を行う。	継続
	<p>(こども未来課)</p> <p>○図書館が発行する絵本のブックリスト、子どもと読書に関する啓発リーフレット等や、保護者向け講演会の講師派遣など、図書館が行っている支援について、新潟市私立幼稚園協会へ文書で情報提供を行い、同協会から市内43の私立幼稚園にその旨周知された。</p>	こども未来課	○図書館が発行する絵本のブックリスト、子どもと読書に関する啓発リーフレット等や、保護者向け講演会の講師派遣など、図書館が行っている支援について、新潟市私立幼稚園協会へ情報提供を行う。	継続
	<p>(学校支援課)</p> <p>○機会を捉えて、絵本や読み聞かせに関する状況を確認し、本に親しむことの重要性について指導・助言を行った。</p> <p>○各園において、週1回程度、親子読書を実施しているほか、月に数回、読み聞かせボランティアの団体が読み聞かせを行っている。</p> <p>○中央図書館との共催で、保護者と幼児を対象とした読み聞かせの会を実施した。</p>	学校支援課	○園訪問や園長会等で、読み聞かせ等幼児期に本に親しませることの重要性を保護者に伝えるよう依頼するとともに、絵本の充実に関する現状について聞き取り、指導・助言を行う。	継続
	<p>(図書館)</p> <p>○児童や親子を対象とした事業のチラシを各保育園や幼稚園に配付し、情報提供を行った。</p> <p>○園向けの図書館利用案内を作成し、送付した。</p> <p>○園の要請により、園で開催する保護者向け絵本講座に講師を派遣した。(7回)</p> <p>○園の要請により園児の図書館施設見学を受け入れ、必要に応じて読み聞かせを実施した。(4回)</p>	図書館	<p>○図書館が実施する事業について、各保育園や幼稚園に情報提供を行う。</p> <p>○図書館利用案内を作成し、施設利用や読み聞かせの利用を促す。</p> <p>○園が開催する保護者やボランティア向けの絵本講座に講師を派遣する。</p> <p>○要請により施設見学を受け入れる。</p>	継続

2 保育園・幼稚園	②地域読書推進事業	課・機関名	内容	区分
	(保育課) ○園児の送迎や保育園の遊びの会を利用している祖父母にとっては、「地域子ども絵本ふれあい事業」の携帯電話による貸出・検索システムよりノートでの貸出が手軽に行えている。子育て支援センターでは、貸出・検索システムの活用が主だった。 ○貸出・検索システムでの利用状況 ・公立・私立保育園13,633冊、幼稚園499冊、子育て支援センター2,115冊、合計16,247冊	保育課	○「地域子ども絵本ふれあい事業」において、保育園、幼稚園や支援センターでの絵本の貸出を、システムとノートを併用することで、より活用しやすくする。	継続
	③職員研修	課・機関名	内容	区分
	(保育課) ○保育課主催で「読み聞かせのすごい力」と題して乳児編、幼児編に分け理論の研修を行った。(228名参加) ○秋葉区主催で「絵本の可能性」と題し講演と実技の研修を行った。(50名参加)	保育課	○保育課主催で、絵本に関する研修会を2回実施する予定。 ○各区において、絵本に関する研修会を開催予定。	継続
	(こども未来課) ○図書館が行っている研修企画への支援や講師派遣等の支援についての情報を、新潟市私立幼稚園協会へ提供し、同協会から市内43の私立幼稚園にその旨周知された。	こども未来課	○図書館が行っている研修企画への支援や講師派遣等の支援についての情報を、新潟市私立幼稚園協会へ提供し、幼稚園での職員研修実施を働きかける。	継続
(学校支援課・総合教育センター) ○今年度は、絵本と保育の関係に関する全国大会で、沼垂幼稚園が発表を行った。また、結幼稚園、中之口幼稚園が、絵本をテーマとした職員研修に取り組み、必要に応じて支援を行った。	学校支援課 総合教育センター	○市立幼稚園の要請により、講座や研修の企画や講師選定・派遣等についての支援を行う。	継続	
(図書館) ○今年度、職員に対する研修の講師派遣・紹介の要請はなかった。	図書館	○園の要請により、子どもと絵本について等の研修会へ講師派遣や講師紹介を行う。	継続	

3 学校	①教職員研修	課・機関名	内容	区分
	(教職員課) ○校長会理事会及び園長会を通して、子どもの読書活動の推進について啓発を行った。	教職員課	○校園長会などを通して周知を図り、子どもの読書活動推進計画の実効性を高める。	継続
	(総合教育センター) ○「パートナー読書」という読書指導の方法を用い、①理論についての講義 ②体験 ③簡単な指導案の作成 ④共有化 ⑤全体指導 という流れで研修を行った。 ○「共有化」を短時間で効率的に行うために、デジカメを持参してもらい、休憩時間中に互いに撮影するように促した。 ○「パートナー読書」という手法のよさを実感し、これを利用した具体的な授業アイデアをもてた人が多かった。	総合教育センター	○10月9日(水)新潟大学教育学部足立幸子准教授を講師に迎え、幼・小・中・高・特別支援学校教諭を対象に「読書活動の充実」という研修を行う。研修を通じて「読書活動の評価」についての理解を深める。	継続
	(教育総務課・学校支援課) ○蔵書管理システム研修を実施した。 ・8月24日 ステップアップ研修 (H23導入29校を対象) ・11月5日・6日 導入時操作研修 (H24導入39校を対象) ・2月26日・27日 新年度に向けた進級処理等研修 (H23導入29校を対象)	教育総務課 学校支援課	○蔵書管理システム研修を実施 ・8月23日 ステップアップ研修(H24導入39校, H25新任職員を対象) ・2月(予定) 新年度に向けた進級処理等研修(H24導入39校, H25新任職員対象)	継続
	(学校支援課・総合教育センター) ○学校訪問や各種研修会を通じて、「言語活動の充実」について指導し、その中で、図書館の活用や読書活動の推進についても、機会を捉え指導した。特に国語では、単元を貫く言語活動の設定と関わって、並行読書などの活用などについて指導した。	学校支援課 総合教育センター	○授業研修において、言語活動の充実という観点から、読書活動の推進を図るように指導する。 ○市小研・中教研の図書館部の依頼により、研修の支援を行う。	継続

<p>(総合教育センター・図書館) ○7月24日の「学校図書館活用研修」(北区・江南区対象)では、新潟大学足立幸子准教授より、最初リテラチャーサークルの理論に関してご講義いただき、その後、リテラチャーサークルを受講者全員で、実際に体験した。 ○8月20日の「教諭と司書連携研修会」は、対象を全市に拡大し、東京学芸大学非常勤講師渡辺暢恵先生より、不読者を減らすために教諭と司書がどのように協同して取り組めばいいのか、具体的事例をもとにご講義いただき、その後、教諭と司書が今後の取組について意見交換をした。受講者は158人で、非常に満足度の高い研修となった。</p>	総合教育センター 図書館	<p>○7月31日(水)新潟大学教育学部足立幸子准教授を講師に迎え、小中学校教諭及び学校図書館司書を対象に「学校図書館活用研修」という研修をほんぽーと中央図書館で行う(中央区・東区・西区対象)。リテラチャーサークルの理論をうかがい、実際にやってみることで、リテラチャーサークルの良さを実感する。 ○8月19日(月)帝京大学教育学部鎌田和宏教授を講師に迎え、全市の小中学校教諭及び学校図書館司書を対象に「教諭と司書連携研修会」を白根学習館で行う。学校図書館を利用した探究型学習はどうあるべきなのか、3校の事例発表と鎌田先生からの講義を通して、考えを深めていく。</p>	継続
<p>(図書館) ○「学校司書実務研修会」を実施した(4つの学校図書館支援センターで延べ26回) ○小学校が主催する職員研修に職員を1回派遣した。</p>	図書館	○各学校図書館支援センターで、学校司書実務研修会をそれぞれ2~4回開催する。	継続
<p>②読書環境の整備</p>	課・機関名	内容	区分
<p>(教育総務課) ○学校図書館管理システムを全小・中学校(170校)に配置完了。127校で運用開始</p>	教育総務課	○学校図書館管理システムを全校(170校)で運用開始する。	継続
<p>(学務課) ○平成23年度末までに小中学校全校の学校図書館図書整備率100%を達成。平成24年度も引き続き、図書費及び図書蔵書冊数の調査・管理をしながら学校図書館図書標準の維持に努めた。また今年度は、今後の図書図書標準維持のための参考・活用に、調査結果を小中学校全校に通知した。</p>	学務課	○図書費及び図書蔵書冊数の調査をしながら学校図書館図書標準の維持に努める。	継続
<p>(施設課) ○校舎改築時に必要な広さの学校図書館及び司書コーナーの整備を進めた。(年度内供用開始:沼垂小、臼井中、笹口小/年度内完成:下山小/25年度完成予定:金津小、新津第一中、岩室中)</p>	施設課	○校舎改築時に必要な広さの学校図書館及び司書コーナーの整備を進める。(金津小、新津第一中、岩室中)	継続
<p>(総合教育センター) ○「本を1か月にどれくらい読むか?」に対して、小5では「10冊以上」、小6では「4から6冊」、中学校では「1から3冊」と答えた割合が最も高かった。昨年度と比べると、小6で「10冊以上」と答えた割合が2.8ポイント増加し、中3では「0冊」と答えた割合が5.5ポイント減少した。全体として、改善傾向にある。 ○上記の調査結果を、12月26日、27日の2日間、市内すべての小中学校担当職員(主に研究主任)に伝達し、さらなる改善を図るように促した。 ○上記調査結果を、市内各図書館に配布、伝達した。</p>	総合教育センター	○生活・学習意識調査を11月下旬から12月上旬にかけて、市内全小中学校(小5・小6・中1・中2・中3)を対象に実施する。「本を1か月にどれくらい読むか?」の質問は継続する。調査結果は、他の質問項目との相関について分析を行い、12月25日、26日の2日間で市内すべての小中学校担当職員(主に研究主任)に伝達する。	継続
<p>(学校支援課) ○学校訪問、校長会、教頭会、各種研修会を通して、家庭学習習慣確立の取組と併せて家庭での読書について保護者への啓発を図るよう指導した。他項目についても、機会を捉えて取り組んだ。 ○文部科学省初等中等教育局児童生徒課より依頼のあった「平成24年度学校図書館の現状に関する調査」を実施した。その集計過程で、不十分な実態については、適宜、読書環境の整備・改善を呼び掛けた。</p>	学校支援課	○学校支援課で作成した教育課程編成資料に学校図書館の活用等の内容を位置付け、自校化の資料とするよう指導する。 ○学校訪問、校長会、教頭会、各種研修会を通して、家庭学習習慣確立の取組と併せて家庭での読書について保護者への啓発を図るよう指導する。 ○市立高校において、学校訪問、校長会、各種研修会を通して、高校生の読書力増進に向けた取組の推進と図書館の環境整備についての指導を行う。 ○総合教育センターが行った読書量調査の結果を家庭学習習慣確立のリーフレットに記載し配付する。	継続
<p>(図書館) ○団体貸出冊数は45,894冊で、昨年度比24%増加。 ○団体貸出のうち搬送利用は約7割(昨年度利用は5割)。 ○学校貸出セット【オレンジBOX】の利用件数は92件。依頼件数は167件。セットでの対応ができない場合は、通常の団体貸出で対応した。教諭からの問い合わせや依頼が増えた。</p>	図書館	○学校への資料支援として、「学校貸出図書搬送事業」および「学校貸出図書セット」の貸出を継続実施する。 ○学校貸出セット【オレンジBOX】について、利用の多い3セット追加整備する。(4月から利用開始)	継続

③学校図書館支援センターの整備		課・機関名	内容	区分
(教育総務課) ○学校図書館支援センター運営検討委員会を3月1日に開催し、これまでの活動を報告するとともに、今後の活動について議論した。	教育総務課	○学校図書館支援センター全体のあり方や活動内容を審議するため、学校図書館支援センター運営検討委員会を開催する。	継続	
(図書館) ○4つの学校図書館支援センターで2区ずつ担当し、小・中学校の図書館訪問を通して連携を深めながら業務相談に応じるとともに、学校司書実務研修や夏休み地域開放への協力など取組をすすめた。 ○各支援センターの取組を審議するため、運営協議会を年2回開催した。(西川は3回) ○4つの支援センターで合同会議を4回、担当者会議を7回開催し、取組の共有化と事業調整を図った。 ○学校司書(電算化ヘルプデスク校等)と連携して、「学校図書館実務マニュアル」を作成した。 ○学校図書館支援センターのホームページをリニューアルした。	図書館	○H24年度に作成した「学校図書館実務マニュアル」を活用し、学校図書館訪問や学校司書実務研修会などを通して、学校図書館の整備を支援する。 ○各支援センターの方針や取組を審議するため、運営協議会を開催する。(4支援センターで年各2回) ○4つの支援センター間での情報共有・意見交換のために合同会議と担当者会議を開催する。(年各4回開催予定)	拡充	
④読書活動に障がいがある子どもへの支援		課・機関名	内容	区分
(図書館) ○12月15日から12月28日まで「世界のバリアフリー絵本展inほんぽーと」を開催し、バリアフリー絵本60点、布絵本、拡大写本などを展示した。 ○新潟県立新潟聾学校幼稚部からの依頼により、学校で読み聞かせを実施した。	図書館	○学校の要請により、職員派遣やボランティアの紹介を行う。	継続	
⑤地域との連携		課・機関名	内容	区分
(教育総務課) ○学校図書館の地域開放を79校で実施し、11,569人が利用(23年度は62校で実施し、8,783人利用)	教育総務課	○実施可能な小学校で、夏季休業期間中に学校図書館の地域開放を実施する。	継続	
(地域と学校ふれあい推進課) ○学校のニーズに応じて、地域教育コーディネーターが読み聞かせボランティアや図書館整備ボランティアを紹介した。 ○読み聞かせボランティアが入った回数は、平成23年度の1,674回に対し、平成24年度は2,137回であり、約28%の増であった。(平成24年度地域と学校パートナーシップ事業実施校の平均回数:小学校19.8回、中学校1.8回) ○読み聞かせボランティア延べ人数は、平成23年度の4,938人に対し、平成24年度は6,466人であり、約31%の増であった。 ○読み聞かせボランティアグループや電算化に伴う地域ボランティアが学校教育活動支援ボランティアの中核として活躍するケースが多くみられた。 ○中学校区や隣接する学校のコーディネーター同士が連絡を取り合い、ボランティアを紹介しあうなどの学校間連携が推進された。	地域と学校ふれあい推進課	○地域と学校パートナーシップ事業実施校(市立の小・中・中等教育・特別支援学校全173校)において、 ・(新規校)学校図書館ボランティアのニーズの有無を把握する。 ・ニーズがある学校において、地域教育コーディネーターが学校図書館ボランティアを紹介する。 ・中学校区内で学校図書館ボランティアについての情報を共有する。	継続	
(図書館) ○小学校が実施する「学校ボランティア支援研修会」に職員を12回派遣した。(読み聞かせ11回・本の修理1回)	図書館	○学校からの要請を受け、読み聞かせや本の修理などの学校ボランティア研修に職員を派遣する。	継続	
⑥学校図書館関係課の連携		課・機関名	内容	区分
(図書館) ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を6月11日と3月21日に開催し、学校図書館支援について連携を深めた。	図書館	○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を年2回開催し、学校図書館支援について連携を深める。	継続	

4 地 域	(1) 図書館				
	①施設・設備・蔵書の充実		課・機関名	内容	区分
	(図書館) ○10月6日に江南区の中心図書館として、亀田図書館を移転開館。 ○中央・豊栄・白根・西川図書館に「学校図書館支援センターコーナー」を設置し、市立小中学校使用教科書や国語関連図書及び学校図書館関連図書を設置・充実させた。また、中央図書館ティーンズコーナーに中学校国語関連図書を設置した。		図書館	○新津図書館の移転新築工事を進める。 ○学校図書館支援用図書の整備や、学校図書館支援センターコーナーの充実(白根図書館・豊栄図書館)を図る。	拡充
	②子どもと本を結ぶ事業の開催		課・機関名	内容	区分
	(図書館) ○全館で、職員及び読み聞かせボランティアによる「おはなしのじかん」を1,297回実施した。(内乳幼児向けの「おはなしのじかん」362回) ○子どもの読書活動を推進するため、ボランティアグループとの共催事業を24回開催した。 ○黒井健氏(ほんぽーとこどもとしょかん名誉館長・絵本作家)による、ほんぽーと開館5周年記念絵画「おひざで絵本」を制作し、館内に設置した。また、ワークショップを開催した。 ○子ども未来課所管の「こども創造センター」に設置する約150冊の図書選定に協力し、布絵本の提供先を紹介した。 ○春と秋の読書週間と夏休みに合わせて各館で事業を開催した。「おすすめ本の紹介(中央図書館)」「10月27日黒井健さん記念絵画除幕式及びワークショップ(中央図書館)」「11月5日わくわくスタンプラリー(白根図書館)」「読書ノート作成・配布(黒崎図書館・山の下図書館)」「1日図書館員(豊栄・白根・西川・月潟・松浜・黒崎図書館)」など ○絵本作家数内正幸氏の原画展と講演会を豊栄図書館で開催した。(原画展:述べ3486人、講演会:60人) ○白根図書館で小澤俊夫氏文化講演会「グリム童話集200歳」を開催した。(参加者191人)		図書館	○全館で、職員及び読み聞かせボランティアによる「おはなしのじかん」を実施し、充実に努める。 ○子どもの読書活動を進めるため、ボランティアグループや他関係課・機関との共催事業を積極的に開催する。 ○8月23日(金)UX新潟テレビ21との共催で「UX読み聞かせ」を開催する。 ○読書週間や学校の長期休業に合わせて図書館利用が促進される事業を実施する。	継続
	(総合教育センター・図書館) ○9月22日(土)に中央図書館と共催で科学イベント「コズミックカレッジ」(宇宙科学教室)を実施した。フィルムケースで小型ロケットを作成し、参加者に宇宙に対する興味を持ってもらった。(参加者親子22組)		総合教育センター 図書館	○7月20日(土)ほんぽーと中央図書館で、総合教育センターと中央図書館の共催により「親子標本制作講習会」を開催する。	継続
③ティーンズ世代へ		図書館	内容	区分	
(図書館) ○4月から3月までの中学校の団体貸出冊数9,318冊(昨年度比27%増)、高校の団体貸出冊数1,818冊(昨年度比55%増) ○中学校・高校の職場体験を64回142人受け入れた。 ○中央図書館でティーンズ向けブックリスト「Leaf(リーフ)」を2回作成・配布した。 ○ティーンズ向け広報誌を豊栄図書館で3回、西川図書館で4回作成・配布した。		図書館	○中学・高校に対して団体貸出、職場体験の受入等を行う。 ○ティーンズ向け広報誌を発行する。	継続	

④学校や保育園などへの支援	課・機関名	内容	区分
(図書館) ○職場体験を66回202人、図書館見学66回2,117人受け入れた。 ○園や子育て支援センターで開催する絵本の講座に講師として、図書館司書を8回派遣した。 ○ブックリストを増刷し、全館で配布予定。(3月) ○リサイクル図書を小中学校や放課後児童クラブ等へ11図書館で3,683冊配布した。 ○団体貸出冊数は45,894冊で、昨年度比24%増加。(再掲) ○団体貸出のうち搬送利用は約7割(昨年度利用は5割)。(再掲) ○学校貸出セット【オレンジBOX】の利用件数は92件。依頼件数は167件。セットでの対応ができない場合は、通常の団体貸出で対応した。教諭からの問い合わせや依頼が増えた。(再掲)	図書館	○職場体験や図書館見学を積極的に受入れる。 ○園や子育て支援センターが開催する絵本講座に講師を派遣する。 ○図書館が推薦する絵本のブックリストや小学生向けのブックリストを全館で配布する。 ○小中学校や放課後児童クラブ等へリサイクル図書を配布する。 ○学校への資料支援として、「学校貸出図書搬送事業」および「学校貸出図書セット」の貸出を継続実施する。(再掲) ○学校貸出セット【オレンジBOX】について、利用の多い3セット追加整備する。(4月から利用開始)(再掲)	継続
⑤ボランティアとの連携・支援	課・機関名	内容	区分
(図書館) ○読み聞かせボランティア養成講座を区を中心図書館で4回実施し、31人が受講した。 ○読み聞かせ等ボランティアの交流会を3回開催した。 ○読み聞かせ等ボランティアと共催で研修会を3回開催した。	図書館	○読み聞かせボランティア養成講座を実施する。 ○読み聞かせボランティアの交流会を開催する。 ○読み聞かせボランティア自主研修会と共催で研修会を開催する。	継続
(2) 公民館・地域子育て支援センター等			
①公民館事業等の充実	課・機関名	内容	区分
(文化政策課) ○新津美術館で「さとうわきこ絵本原画展 みんなだいすいきばばあちゃん」を2012年9月1日～10月8日に開催し、さとうわきこの初期から最新の絵本まで12作品の全場面を展示した。また、巨大な「ねぶた」作品や石やトレーの絵付け作品なども展示した。(展示点数・約230点) ○関連イベントとして、ボランティアによる絵本の読み聞かせを5回実施し、計223人が参加した。 ○ボランティア養成の、読み聞かせの部分に関しては図書館に講師を依頼した。	文化政策課	○新津美術館で「みんな大好きノンタン展」(誕生35周年記念キヨノサチコ絵本原画の世界)を2013年11月9日～12月25日に開催し、約150点の絵本原画に加え絵本誕生の様子が分かるラフスケッチやアイデアノート、画材等を展示。生みの親であるキヨノサチコが芸術的な美しさや道徳にとらわれず、楽しい絵本をえがきたいという熱い思いとその魅力を紹介する。 ○関連イベントとしてボランティアによる絵本の読み聞かせを実施する。	継続
(障がい福祉課) ○日々の療育の中で季節に応じた絵本の読み聞かせを行い、季節を十分に感じ、楽しめるようにした。また、生活や言葉に関する絵本を提供し、ことばや事象に対する意欲を高めるようにした。繰り返し読み聞かせることで、絵本に集中でき次への期待を持って待つ、子どもたちの様子が見られた。絵本から遊びに発展させて子どもたちみんなで遊びを楽しむこともできた。	障がい福祉課	○市立ひしのみ園(福祉型児童発達支援センター)での日中活動において、季節に応じた絵本、生活に関する絵本、言葉遊びのできる絵本など、繰り返し読み聞かせを実施する。	継続
(国際課) ○(公益財団法人)新潟市国際交流協会の主催でクロスパルにて「外国語の絵本の読み聞かせとその国の遊び」を2回実施。 ○7月25日参加者:子ども19人(日本16・台湾1・フランス1・中国1)、保護者14人 ○8月22日参加者:子ども15人(全員日本人)、保護者12人、見学者3人 ○実施言語:英語・ロシア語・中国語(7月25日) / 英語・韓国語・フランス語(8月22日) ○各国の国際交流員が読み聞かせを行い、1時間の中で言語ごとに絵本と遊びを繰り返し、子どもたちが飽きないようにした。 ○言語の音の違いを楽しんでもらうことや絵本の内容を理解してもらいたいという理由から、1ページごとに日本語・外国語と交互に読んだ。夏休み中に実施し普段クロスパルに足を運べない子供たちが参加できた。 ○子どもたちは国際交流員の声を通して外国語の音聞き、絵本から異文化に触れるよい機会となった。	国際課	○(公益財団法人)新潟市国際交流協会の主催で、ほんぽーと(新潟市立中央図書館)を会場に国際交流員による外国語の絵本の読み聞かせとその国の遊びを実施予定。 ・夏季休業期間中に2回実施。8月6日 10:30～11:30(英語・中国語・フランス語)、8月22日 10:30～11:30(英語・韓国語・ロシア語) ・本の内容や長さによって、1ページごとに日本語→外国語を交互に読む。または日本語の絵本を1冊読み終えたら、外国語の絵本を読むといったやり方をする。 ・(公益財団法人)新潟市国際交流協会が毎月発行している外国語情報誌各国語(7月号)に掲載し、外国籍市民向けにも広報する。	継続

4地域

4 地 域	(各区健康福祉課) ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝えた。(各施設月1～2回実施)	各区健康福祉課	○子育て応援ひろば、児童センターでは幼児、児童等に読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝える。(各施設月1～2回実施)	継続
	(公民館) ○「子育てサロン事業」で、ボランティアによる絵本の読み聞かせの時間を設けた。(8館) ○ボランティア団体の協力による「おはなしのせかいへ」等、絵本の読み聞かせ事業を実施した。(7館)	公民館	○公民館等を会場にした絵本の読み聞かせ事業を実施する。 ○親同士の交流や情報交換の場である子育てサロン事業等で、絵本の読み聞かせの時間を設ける。	継続
	(公民館・図書館) ○横越地区公民館と図書館の連携により、乳幼児学級の読み聞かせの講座を開催した。	公民館 図書館	○公民館と図書館で連携して絵本の講座を開催する。	
	②蔵書の充実や事業への支援	課・機関名	内容	区分
	(こども未来課) ○一部放課後児童クラブ(ひまわりクラブ等)で、春の読書週間に合わせてポスターを掲示し、情報提供を行った。 ○一部の放課後児童クラブ(ひまわりクラブ等)に読み聞かせボランティアを招いて、本に触れる機会を持たせた。	こども未来課	○子どもと読書に関する啓発リーフレットの設置やポスターの掲示をし、情報提供を行う。 ○図書館と協力し、絵本や工作・動物関連の本を設置した「こども創造センター」を5月25日にオープンし、絵本にふれる機会をもたせる。	継続
	(地域と学校ふれあい推進課) ○中学校区や隣接する学校の地域教育コーディネーター同士が連絡を取り合い、ボランティアを紹介しあうなどの学校間連携が推進された。 ○新潟市教育フォーラム(「読書が育む子どもの未来～家庭・学校・地域で～」)に、地域教育コーディネーターの参加を促進した。	地域と学校ふれあい推進課	○地域教育コーディネーター研修会や子どもふれあいスクール運営主任研修会で、図書館の取組を紹介する。	継続
	(保育課) ○「地域子ども絵本ふれあい事業」において貸出・検索システムで貸し出しを行った。(公立・私立保育園13,633冊、幼稚園499冊、子育て支援センター2,115冊、合計16,247冊) ○システムの利用に拘らず、従来どおりノートでの貸出も並行して行い、貸出利用の拡大を図った。	保育課	○「地域子ども絵本ふれあい事業」において、利用しやすいように貸出・検索システムとノートの利用を併用し、貸し出しの拡充を図る。(再掲)	拡充
③ボランティアの活動	課・機関名	内容	区分	
(公民館) ○「子育てサロン事業」での絵本の読み聞かせ事業について、ボランティア団体と企画会議を開催し、協働で実施することにより、ボランティア活動を支援した。(2館)	公民館	○子育てサロン等における絵本の読み聞かせ事業をボランティア団体と協働で実施することにより、その活動を支援する。	継続	

◇計画推進のために

1 数値目標

指標項目	担当課	平成20年度末（実績値）	平成24年度末（実績値）	平成26年度末（目標値）
① 学校図書館図書標準を達成している小中学校の割合（達成校率）	学務課	小学校 61%	小学校 100%	小学校 100%
		中学校 54%	中学校 98.2%	中学校 100%
② 市立図書館における小中学生（7歳～15歳）への本の貸出冊数	中央図書館	460,000冊	500,000冊	531,000冊
③ 市立図書館における児童書の貸出冊数	中央図書館	1,056,000冊	1,099,500冊	1,220,000冊

2 広報・啓発

平成24年度の実績	平成25年度の実績		
①子どもの読書活動についての啓発	課・機関名	内容	区分
<p>(図書館)</p> <p>○6月1日に「新潟市教育フォーラム2012 読書が育む子どもの未来～家庭・学校・地域で～」を開催した。</p> <p>会場:市民プラザ 参加者:536名</p> <p>基調講演「『知の地域づくり』と子どもの読書環境」片山善博慶應義塾大学教授</p> <p>実践発表(ブックスタートボランティア、小学校教諭、中学校司書)、パネルディスカッション</p> <p>テーマ「子どもの読書環境を整えるためには、今何をすべきか」</p> <p>アンケートの回答では、「とても良かった」「良かった」が、基調講演93%、実践発表・パネルディスカッション84%</p> <p>○4月に「ほんぼーと中央図書館利用案内」「学校貸出図書搬送利用案内」を市内小・中・高校、特別支援学校に配付した。(219校)</p> <p>○7月に学校貸出セット【オレンジBOX】利用案内を小・中学校に配付した。</p> <p>○4～5月に各教育事務所や校長会等で、学校図書館支援センターのH24年度の実績について説明した。</p> <p>○教育通信やスキップに読書活動についての情報を掲載した。</p>	図書館	<p>○4月に「学校向けほんぼーと中央図書館利用案内」「学校向け団体貸出利用案内」を市内小・中・高校、特別支援学校に配付。(218校)</p> <p>○「学校貸出セット【オレンジBOX】図書セットリスト」を市内小・中学校に配付。</p> <p>○4～5月に校長会等で、学校図書館支援センターのH25年度の実績について説明した。</p> <p>○子どもを持つ保護者の利用促進に向け、ポスターを作成する。</p> <p>○教育通信やスキップなどの情報誌に読書活動についての情報を提供する。</p>	継続
②文学創作活動の啓発	課・機関名		区分
<p>(文化政策課)</p> <p>○「にいがた市民文学」の「青春の部」では、昨年より69点多い245作品の応募があった。</p> <p>○創作教室については、18歳以下から5名の参加があり、うち2名から作品の応募があった。</p>	文化政策課	<p>○「にいがた市民文学」で18歳以下を対象とした「青春の部」を継続実施し、若年層からの応募を呼びかけるとともに、より広く文芸に興味を持ってもらうため、初心者向けの創作教室を開催する。</p>	継続

3 推進体制

平成24年度の実施結果	平成25年度の実施		
①計画の推進組織の設置	課・機関名	内容	区分
(図書館) ○「新潟市子ども読書活動推進計画庁内推進会議」を6月11日と3月21日に開催し、新潟市の取組みについて情報交換を行った。 ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を6月11日と3月21日に開催し、学校図書館支援について連携を深めた。	図書館	○「新潟市子ども読書活動推進計画庁内推進会議」を2回開催し、子どもの読書活動に関して情報交換を行う。 ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を年2回開催し、学校図書館支援について連携を深める。	継続

別紙 1